

一般社団法人日本環境教育学会
第 35 回年次大会(千葉)

まちづくりが織りなす しなやかな環境教育

大会内容・プログラム

2024年8月29日(木)～9月1日(日)

主催：一般社団法人日本環境教育学会

(第35回年次大会実行委員会)

会場：江戸川大学駒木キャンパス および オンライン

市野谷の森・利根運河交流館

目次

1. 大会実行委員長挨拶.....	1
2. 開催概要.....	1
3. 大会日程.....	2
4. 会場について.....	4
5. 参加者のみなさまへ.....	9
6. 口頭発表について.....	11
7. ポスター発表について.....	13
8. 自主課題研究について.....	13
9. 大会参加者向け企画.....	14
10. 一般公開企画.....	17
11. 研究発表プログラム.....	21

[大会実行委員会名簿]

実行委員長	佐藤 秀樹 (江戸川大学)
事務局長	中村 和彦 (東京大学)
委員	河村 幸子 (東京農工大学)
委員	富田 俊幸 (開智国際大学)
委員	向中野 裕子 (産業環境管理協会)
委員	林 浩二 (千葉県立中央博物館)
委員	高橋 宏之 (千葉市動物公園)
委員	山島 有喜 (國學院大学)
委員	中村 舞美 (オープンコンシェルジュ)
委員	大倉 茂 (東京農工大学)
委員	大塚 啓太 (森林総合研究所)
委員	田村 和之 (鳴門教育大学)

1. 大会実行委員長挨拶

第 35 回年次大会（千葉）実行委員長
佐藤 秀樹

一般社団法人日本環境教育学会第 35 回年次大会（千葉）にご参加いただき、心より感謝申し上げます。本大会の実行委員長として、皆様を流山市にある江戸川大学にお迎えできることを大変光栄に思います。

今回の大会テーマは「まちづくりが織りなす しなやかな環境教育」です。今回のテーマでは、私たちの暮らしと密接に関わる環境教育の新しい形を模索し、地域性を重視しながら持続可能な未来を築くことを目指しています。

2024 年 1 月 1 日には、石川県能登半島を中心した地震により甚大な災害がありました。能登半島地震により被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。本大会では、防災をテーマにしたシンポジウムを開催し、地域社会が災害に対してどのように備え、対応や連携をしていくかについて深く考える機会を提供します。また、災害時における救助犬の役割等を学ぶワークショップも予定しており、実際の救助活動に触れ、理解を深めることができる貴重な体験の場にしていきたいと考えています。

また、環境教育の未来を見据えたビジョン会合では、専門家や参加者の皆様とともに意見を交換し、次世代の環境教育の方向性を探ります。この会合が、新たな視点やアイデアを生み出す場となることを期待しています。

さらに、利根運河や市野谷の森でのエクスカージョンも予定しております。これらのエクスカージョンでは、自然と直接触れ合いながら、地域の歴史や生態系について学ぶことができます。流山市という地域性を重視したエクスカージョンの体験では、環境教育の重要性を再認識させてくれることでしょう。

最後に、本大会が皆様にとって有意義な学びと交流の場となり、新たな発見やインスピレーションを得る機会となることを心より願っております。大会の成功に向けて、実行委員会一同、全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

江戸川大学において皆様とお会いできることを楽しみにしております。大会を通じて、どうぞ有意義な時間をお過ごしください。

2. 開催概要

- 期間：2024年8月29日（木）～9月1日（日）
- 会場：江戸川大学駒木キャンパス・オンライン（Zoom）
市野谷の森（8月30日・エクスカーショ会场）
利根運河交流館（8月30日・エクスカーショ会场）
- 主催：一般社団法人日本環境教育学会（第35回年次大会実行委員会）
- 後援：環境省・文部科学省・農林水産省・国土交通省・
流山市・流山市教育委員会・一般社団法人日本雑草学会
- 一般社団法人日本環境教育学会第35回年次大会ウェブサイト
<https://www.jsfee.jp/members/meeting/113/601>

3. 大会日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
8月29日(木) @Zoomミーティング			口頭発表 (オンライン)		自主課題研究 (オンライン)			口頭発表 (オンライン)					
8月30日(金) @江戸川大学・ エクスカーショ各地		エクスカーショ1 (市野谷の森)				特別企画 (伴侶動物 同行避難)		社員総会		若手会員 の集い	学会企画 (未来ビジョン)		
			エクスカーショ2 (利根運河)										
8月31日(土) @江戸川大学	大会 受付	口頭発表 ポスター発表(12:00-13:00コアタイム)			公開シンポジウム1 (まちづくり)		公開シンポジウム2 (『環境教育』探究)		会員 懇談会			懇親会	
		環境教育メッセ											
9月1日(日) @江戸川大学	大会 受付	口頭発表 ポスター発表			研究会		自主課題研究						
		英語報告部会	国際交流会										
		奨励賞審査											
		環境教育メッセ											

※特別企画（8月30日）、公開シンポジウム、環境教育メッセは、大会参加費をお支払いいただいた方以外の方も参加可能です。

<大会詳細>

8月29日（木）@オンライン（Zoom）

- 口頭発表 = 10：00～11：15／14：30～16：45
自主課題研究 = 12：00～14：00

8月30日（金）@市野谷の森・利根運河交流館・江戸川大学駒木キャンパス

- エクスカーショ1 = 9：00～11：00（市野谷の森）
エクスカーショ2 = 10：00～12：00（利根運河交流館）
特別企画 = 14：00～15：00（江戸川大学駒木キャンパス L棟2階 第一体育館）
「災害時の伴侶動物との同行避難を考える」 **※参加無料**
社員総会 = 15：00～17：00（江戸川大学駒木キャンパス E棟2階 202講義室）
若手会員の集い = 17：00～18：00（江戸川大学駒木キャンパス E棟2階 222講義室）
学会企画 = 18：00～20：00（江戸川大学駒木キャンパス E棟1階 102講義室）
「『未来ビジョン』の今後について語り合うワークショップ」

8月31日(土) @江戸川大学駒木キャンパス

- 受付開始時間 8:00 (E棟1階)
- 口頭発表 = 9:00~12:00 (E棟2階・3階)
- ポスター発表 = 9:00~13:00 (コアタイム 12:00~13:00) (E棟2階211)
- 環境教育メッセ = 9:00~15:30 **※参加無料** (E棟1階 101 学生ホール)
- 公開シンポジウム 第1部 = 13:00~14:45 **※参加無料** (E棟1階 100 映像ホール)
- シンポジウムテーマ「まちづくりが織りなす しなやかな環境教育」
- 登壇者：矢口輝美氏 (流山防災まちづくりプロジェクト)
- 木村浩氏 (武蔵野市)
- 秦範子氏 (都留文科大学)
- 公開シンポジウム 第2部 = 15:15~17:00 **※参加無料** (E棟1階 100 映像ホール)
- シンポジウムテーマ「『環境教育』というアイデアを通して何を探究してきたのか
～環境教育の探究世界の地図づくりの試み～」
- 登壇者：安藤聡彦氏 (埼玉大学)
- 川嶋直氏 (川嶋直事務所・公益社団法人日本環境教育フォーラム前理事長)
- 大森亨氏 (北海道教育大学 [元])
- 原子栄一郎氏 (東京学芸大学)
- 会員懇談会 = 17:00~18:00 (E棟1階 100 映像ホール)
- 懇親会 = 18:30~20:30 (L棟1階 学生食堂)

9月1日(日) @江戸川大学駒木キャンパス (英語報告部会・国際交流は一部オンライン)

- 受付開始時間 8:00 (E棟1階)
- 口頭発表 = 9:00~12:00 (E棟2階・3階)
- 奨励賞審査 = 9:00~10:00 (E棟3階 322 講義室)
- 英語報告部会 = 9:00~11:00 (E棟3階 312 講義室)
- ポスター発表 = 9:00~13:00 (E棟2階 211 講義室)
- 環境教育メッセ = 9:00~15:30 **※参加無料** (E棟1階 101 学生ホール)
- 国際交流会 = 11:00~13:00 (E棟3階 312 講義室)
- 研究会 = 13:00~15:00 (E棟1階 100 映像ホール)
- 自主課題研究 = 15:30~17:30 (E棟2階・3階)

4. 会場について

<江戸川大学駒木キャンパスへのアクセス>

所在地：〒270-0198 千葉県流山市駒木 474

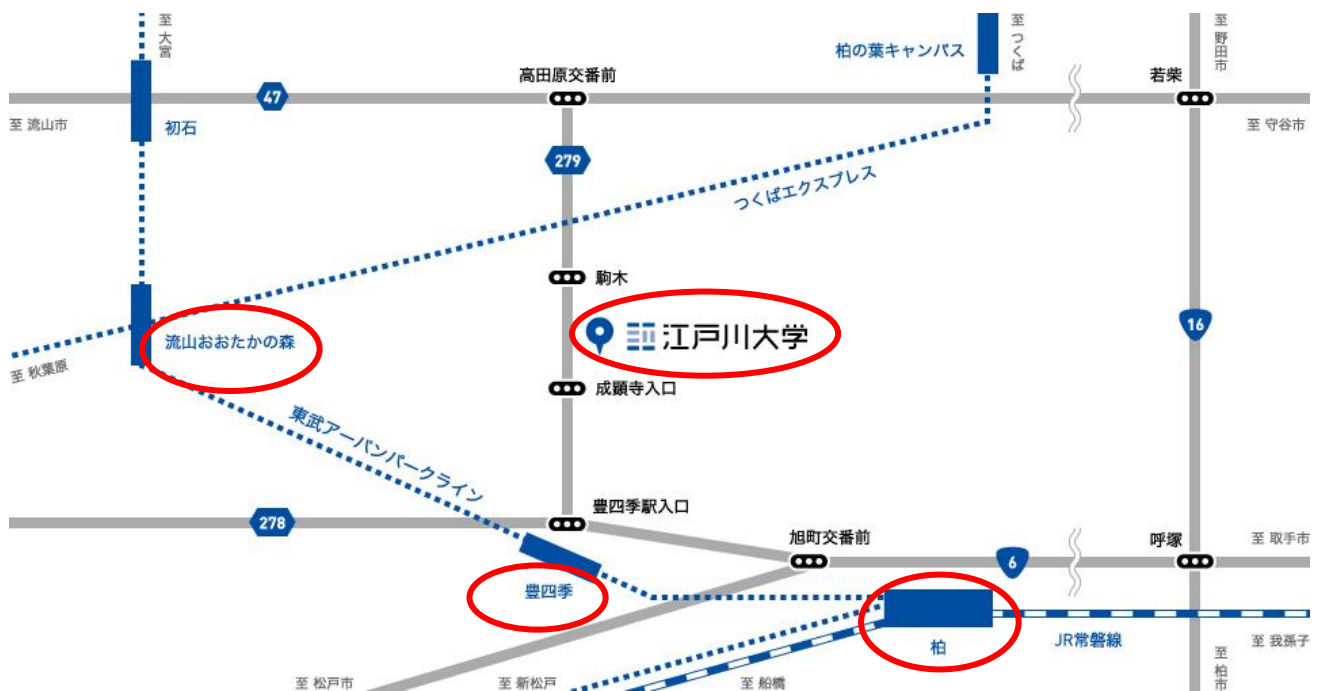
※地図・写真・文章は、江戸川大学のウェブサイトより転用・追記

江戸川大学駒木キャンパスにお越しになる場合は、公共交通機関をご使用して頂くよう、お願いいたします。駐車場の利用については、駐車スペースに限りがありますので、事前の許可が必要になります。駐車が必要な場合は、事務局まで事前にご連絡下さい。事務局連絡先: chiba2024@jsfee.jp

(1) 電車でお越しの場合

<最寄駅から大学までのご案内>

- 江戸川大学駒木キャンパスの最寄駅は、つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン『流山おおたかの森駅』もしくは東武アーバンパークライン『豊四季駅』となります。
- つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン『流山おおたかの森駅』からは、スクールバスで約6分。
- 東武アーバンパークライン『豊四季駅』からは、徒歩約12分。
※豊四季駅からのスクールバスは運行していません。
- JR『柏駅』から来る場合は、JR『柏駅』西口より東武バス（2番のりば）に乗車、『梅林バス停』で下車（約5分）



(2) 流山おおたかの森駅からのスクールバス運行予定表

スクールバスの時刻表や運行予定表は交通アクセスでお知らせしています。

スクールバス：<https://www.edogawa-u.ac.jp/koutuu/>

- 江戸川大学のスクールバスは大学正門前と流山おおたかの森駅を直通運行しています(大学⇄駅間における途中の停車駅はありません)。
- 流山おおたかの森駅の停留所は東出口の路線バスの並びにあります。

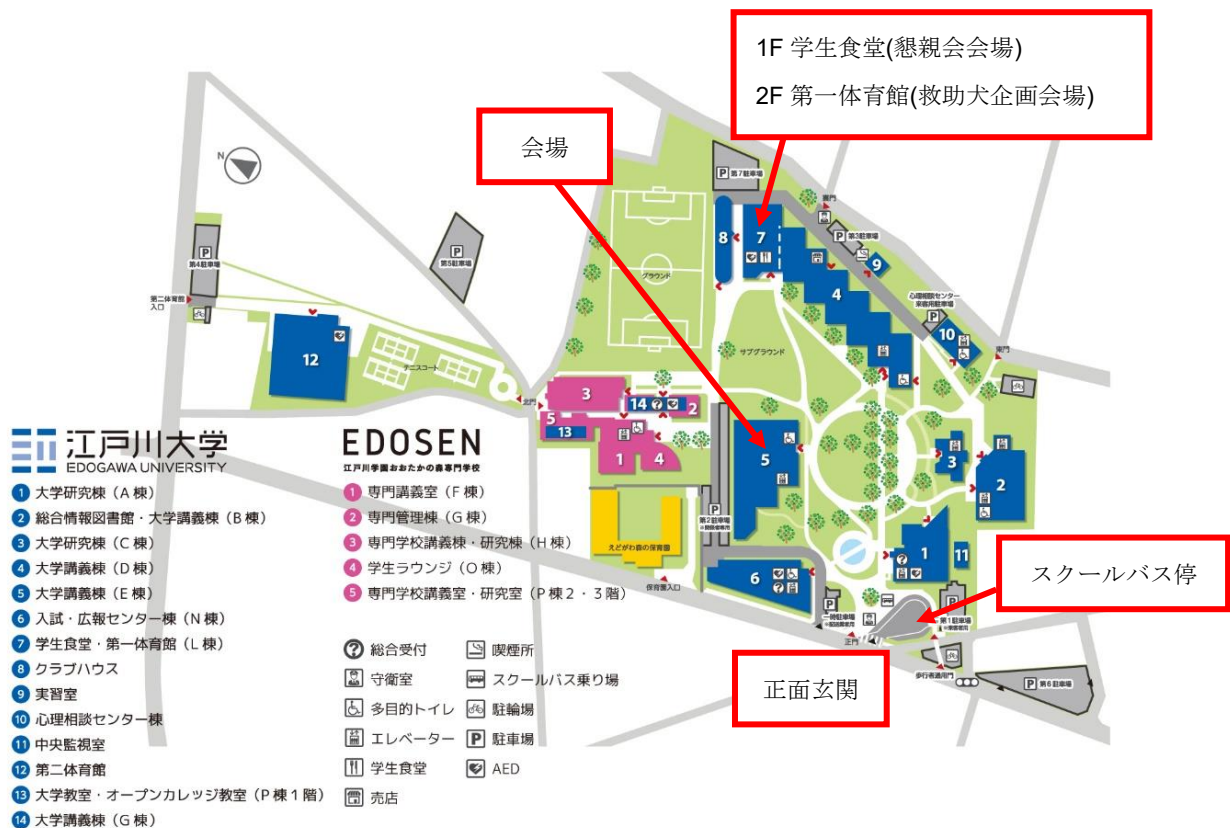
「流山おおたかの森」駅周辺マップ



(3) 最寄り駅から江戸川大学までの徒歩マップ



〈江戸川大学駒木キャンパス 校内図〉 ※地図は江戸川大学のウェブサイトより転用



<発表会場（8月30日～9月1日）>

江戸川大学駒木キャンパス E棟・L棟

使用会場

E棟

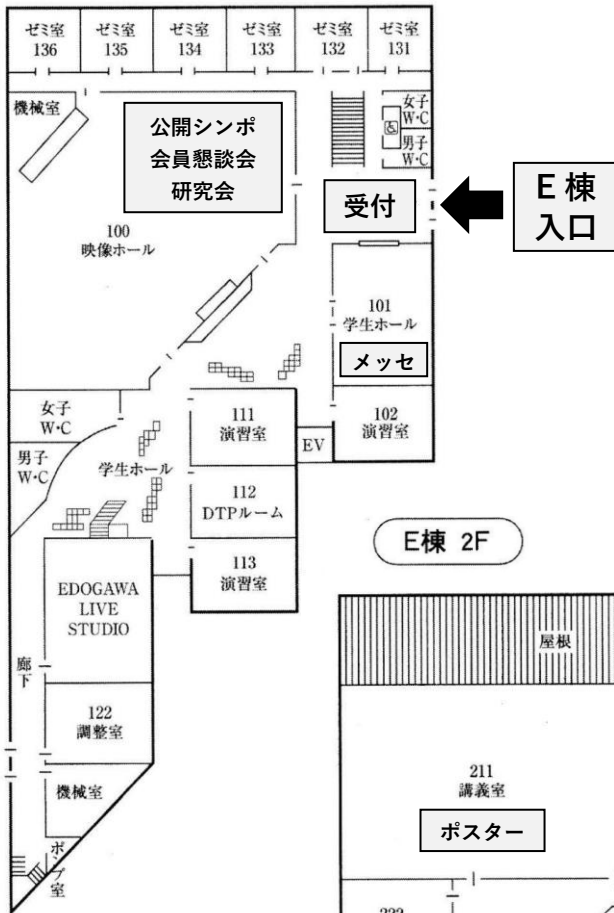
- 100 映像ホール 公開シンポジウム 会員懇談会 研究会
 - 101 学生ホール 環境教育メッセ
 - 102 演習室 学会企画（未来ビジョン）
 - 202 講義室 口頭発表 A 会場 自主課題研究① 社員総会
 - 211 講義室 ポスター発表
 - 212 講義室 口頭発表 B 会場 自主課題研究②
 - 222 講義室 若手会員の集い 自主課題研究③
 - 223 講義室 口頭発表 C 会場 自主課題研究④
 - 302 講義室 口頭発表 D 会場 自主課題研究⑤
 - 312 講義室 口頭発表 E 会場 英語報告部会 国際交流会 自主課題研究⑥
 - 321 講義室 自主課題研究⑦
 - 322 講義室 口頭発表 F 会場 奨励賞審査 自主課題研究⑧
- （203 演習室・213 演習室・303 演習室・313 演習室 参加者休憩室）

L棟

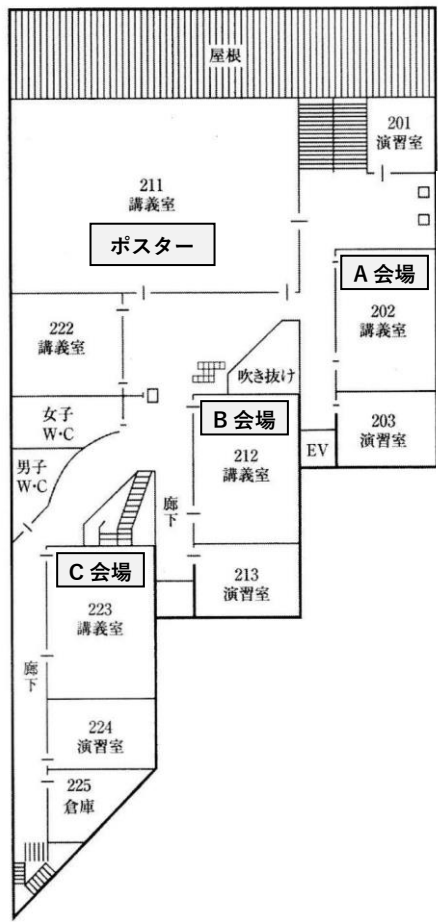
- 第一体育館 特別企画「災害時の伴侶動物との同行避難を考える」
- 学生食堂 懇親会

● E棟

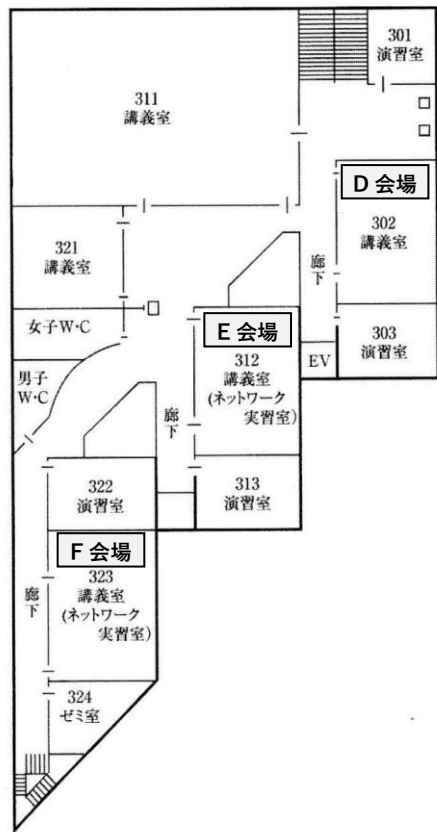
E棟 1F



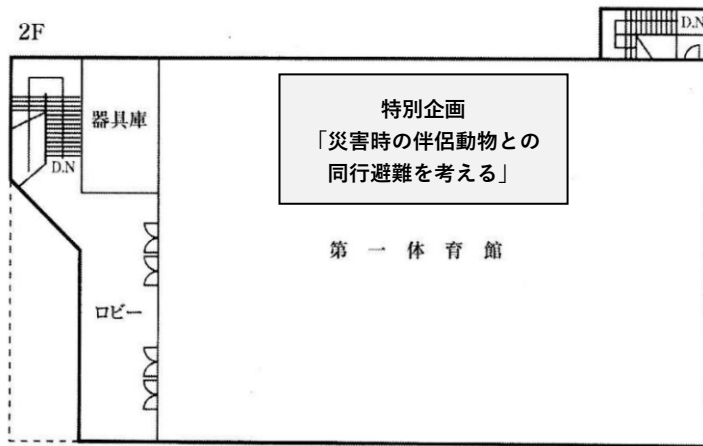
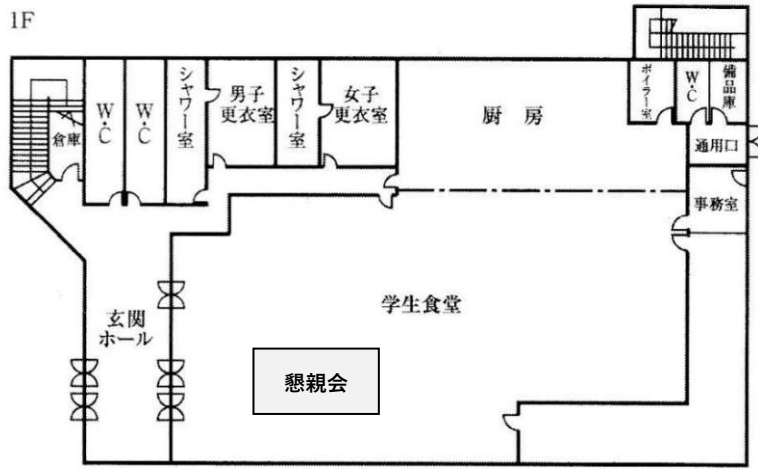
E棟 2F



E棟 3F



● L棟



5. 参加者のみなさまへ

対面参加

●全般について

- ・大会受付は8月31日（土）～9月1日（日）、江戸川大学駒木キャンパスのE棟1階に設置します。参加者は必ずここで受付をしてください。
- ・大会受付にて参加表（名札）をお渡しいたします。会場内では必ず身に付けてください。
- ・大会開催期間中は、会場以外の建物および教室に出入りすることはできません。
- ・会場内は全面禁煙です。喫煙スペースはございませんので、予めご了承ください。

●会場でのwifi利用について

- ・当日の会場受付時に、学内Wi-Fi接続のためのゲスト用無線LANアカウントID・パスワードをお渡しする予定です。ただし、回線速度については保証できません。

●ご宿泊について

- ・宿泊先は各自でお手配ください。実行委員会では予約、あっせん等の手配はいたしません。アクセス情報（p.4-7）を参照いただき、お早めに宿泊場所の確保をお願いいたします。

●お食事について

- ・大会期間中、江戸川大学駒木キャンパスの食堂は営業しません。
- ・食事の際はE棟の休憩室（203・213・303・313）等を利用ください。
- ・ゴミは各自でお持ち帰りください。

●その他

- ・クロークはございません。貴重品等は各自が携帯してください。

オンライン参加

- ・口頭発表（オンライン）ではオンライン会議システムZoomを使用します。ご自身のパソコン、タブレット、スマートフォンからインターネットに接続いただきご参加ください。
- ・パソコンの操作、インターネット接続、映像・音声等については事前にご自身でご確認ください。右記のリンク先でログインテストができます：<https://zoom.us/test>
- ・オンライン参加にかかる通信料等、別途発生する費用については各自でご負担ください。
- ・ミーティングIDとパスコードは大会前日頃に参加申込者へ直接送付されます。
- ・ミーティングルームに入室する際は、Zoom上で表示される名前を「氏名（ご所属）」と設定してください。
- ・オンラインでの参加を希望される方は、実行委員会が定める発表方法、及び聴講方法にしたがってください。オンライン大会での発表に際してトラブル等が生じても、日本環境教育学会はその責任を負いません。
- ・発表中の映像・音声・テキストログ等を発表者に無断で録画・録音・スクリーンショットしないでください。また、SNSへの投稿等による第三者へ開示は禁止とします。
- ・チャット機能の使用および発表中の質問については、各セッションの座長の指示に従ってください。

- ・接続数に限りがあるため、複数のデバイスを使っての同時接続はしないでください。
- ・円滑な進行を妨げる行為があった場合、座長、サポートスタッフの判断で、参加者のマイクやカメラ、画面共有などを強制的に off にする場合があります。ご了承ください。

6. 口頭発表について

対面発表

(事前準備)

- ・発表は、発表者が PC・タブレットを持ち込んでください。会場での PC 貸出の準備はございません。プロジェクターの接続は、HDMI 端子を使用しますので、HDMI 端子を使用できる環境をご用意ください。
- ・PC の操作は発表者の責任で行ってください。
- ・念のため PowerPoint 等のスライドデータは、USB メモリに入れて当日ご持参ください。ご持参する USB メモリは、ご自身でウイルスチェックをお願いします。
- ・発表者はセッションの入替時間に接続確認を行ってください。

(発表者)

- ・発表者は 1 つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機しててください。
- ・発表者ははじめに発表タイトルと発表者名を述べてください。
- ・口頭発表のスライドなどの撮影可否については、発表者がご自身で、発表前にその旨お伝えください。
- ・発表時間は 15 分（発表 12 分、質疑 3 分）で進行します。
- ・発表中の合図は次の通りです。

第 1 鈴 10 分

第 2 鈴 12 分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください。）

第 3 鈴 15 分（質疑終了です。次の発表者と交代してください）

- ・発表者はそれぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機してください。

(座長のみなさま)

- ・座長はセッション全体を担当していただきます。発表から総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。
- ・進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。
- ・質問者には、はじめに氏名と所属を述べさせてください。
- ・討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

オンライン発表

(事前準備)

- ・参加申込者に送付される Zoom ミーティング ID とパスコードを確認し、入力してください。
- ・ミーティングルームに入室する際は、Zoom 上で表示される名前を「【発表者】氏名 (ご所属)」の順に入力してください。例：【発表者】江戸川乱歩 (江戸川大学)
- ・接続速度が十分確保できる通信環境での接続を心がけてください。
- ・ヘッドセットあるいはマイク付きイヤホンをお持ちの場合は、それらの使用をお勧めします。
- ・下記リンク先にてログインテストが可能です。事前に音声等の確認をお願いいたします。

<https://zoom.us/test>

(発表者)

- ・口頭発表は Zoom を用い、発表していただきます。
- ・発表者は自身のセッション開始時間の 5 分前までには必ずミーティングルームに入室してください。
- ・発表時間は 15 分 (発表 12 分、質疑 3 分) で進行します。
- ・発表中の合図は以下の通りです。

第 1 鈴 10 分

第 2 鈴 12 分 (発表時間終了です。直ちに発表を終了してください。)

第 3 鈴 15 分 (質疑終了です。カメラとマイクをオフにしてください。)

- ・発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまでミーティングルームに待機してください。

(参加者)

- ・ミーティングルームに入室する際は、Zoom 上で表示される名前を「氏名 (所属)」の順に入力してください。
- ・発表を聴く際はカメラとマイクはオフにしてください。
- ・チャット機能の利用については座長の指示に従ってください。
- ・質疑応答を行う時は、リアクションボタン (手を挙げる) をクリックしてください。座長より指名された後、カメラとマイクをオンにして質問してください。
- ・円滑な運営にご協力ください。

(座長のみなさま)

- ・発表から総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。
- ・セッションを開始する前に、チャット機能の利用の可否について明言してください。
- ・進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。
- ・質問者には、はじめに氏名と所属を述べさせてください。
- ・討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

7. ポスター発表について

(事前準備)

- ・発表者は8月31日(土)の9:00までに所定の位置にポスターを掲示してください。
- ・ポスターの展示スペースは、1件につきA0サイズ1枚です。
(縦:1189mm×横:841mm、模造紙サイズ<1090mm×790mm>も可)
- ・ポスター貼り付け用の画鋏を大会実行委員会で準備します。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。
- ・発表用ポスターの撮影を禁止する場合は、発表者ご自身でその旨を掲示してください。

(発表者)

- ・発表者は質疑応答のため、8月31日(土)のコアタイム(12:00~13:00)に、ポスター前で待機し、質疑応答を行ってください。
- ・コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。

(後片付け)

- ・9月1日(日)の12:30~13:00に各自ポスターを取り外して撤収を完了してください。
- ・撤収時間を過ぎて掲示されているポスターは、実行委員会で処分いたします。保管はいたしませんので、ご了承ください。

8. 自主課題研究について

- ・対面の会場設営および進行等の運営はすべて企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。
- ・代表者及びメンバーが責任をもって進行してください。
- ・終了時間は厳守をお願いします。

9. 大会参加者向け企画

●エクスカージョン

※参加には事前申込が必要です。詳細は年次大会ウェブサイトにてご確認ください。

(<https://www.jsfee.jp/members/meeting/113/601>)

① NPO さとやまによる市野谷の森の散策

日時：8月30日（金）午前9時～11時

場所：おおたかの森センター・市野谷の森

内容：

流山おおたかの森駅から徒歩15分ほどにある市野谷の森をご案内します。この森はつくばエクスプレス開通に伴う宅地開発であやうく消滅するところ、オオタカの生息が見つかったことをきっかけに、市民の活動によって半分の約25haが樹林地を維持する公園として保全されることになった森です。

スケジュール：

9:00～9:30：市野谷の森とNPOさとやまの活動について

9:30～10:45：市野谷の森をご案内

人数（上限）：20名

参加費：無料

*参加者は直接現地（おおたかの森センター）に来ていただき、かつ現地解散

*集合場所/会場：おおたかの森センター（流山市おおたかの森西2-13-1）

流山おおたかの森駅西口から徒歩10分強

*雨天の場合は、中止。

特定非営利活動法人NPOさとやま <https://www.nposatoyama.com/>

②利根運河交流館による利根運河の自然

日時：8月30日（金）午前10時～午後12時

場所：利根運河交流館

テーマ：利根運河の自然

内容：

利根運河は、江戸川と利根川を結ぶ全長8.5kmの運河です。明治23年に開通した利根運河は、当時の最先端の土木技術を用いて建設された日本初の西洋式運河です。最盛期には年間4万隻の船が行き交い、桜の名所として知られる観光地でしたが、鉄道の発達による水運の衰退に加え、昭和16年の大洪水により、約50年で運河としての役目を終えました。谷津などの自然の地形を活かして作られた利根運河は、年月を経て、徐々に元来の自然の姿を取り戻し、現在は、西洋式運河の景観を残しつつ、多様な生き物が共生する里山の生態系を有する特性を持つ地域資源です。

スケジュール：

10:00～10:05 趣旨説明

10:05～10:45 利根運河の歴史について説明（運河水辺公園、利根運河交流館）

10:45～11:10 利根運河の水害、河川事務所の見学

11:15～12:00 利根運河の生態系について

人数（上限）：20 名

参加費：無料

*参加者は直接利根運河交流館に来て頂き、かつ現地解散。

利根運河交流館から最寄り駅運河駅（東武野田線）まで徒歩 10 分

*雨天決行

利根運河交流館 <https://www.tone-unga.com/>

●若手会員の集い

日時：8月30日（金）17:00～18:00

会場：E棟2階222講義室（江戸川大学駒木キャンパス）

内容：

本学会は未来志向の組織として、次世代を担っていただく若手会員が集う場を大切にしてきました。本大会においても、学生のみなさんや入会して間もない方々が集い、各自の研究紹介やネットワーキングが行える場を設定します。当日は、本学会の『未来ビジョン』策定に携わっている若手・中堅会員も同席し、近年の学会の状況についての情報共有をしたり、みなさんからのご質問・ご要望を受けたりもする予定です。

特に事前申込は不要ですし、途中からの参加もしやすい形で進行しますので、ぜひ気軽に顔を出してください。今回も新たな仲間が増え、本学会がますます充実した場になることを楽しみにしています！

●学会企画「『未来ビジョン』の今後について語り合うワークショップ」

日時：8月30日（金）18:00～20:00

会場：E棟1階102演習室（江戸川大学駒木キャンパス）

内容：

2023年度、本学会内にて新たに「未来ビジョン・ワーキンググループ(WG)」が設置され、今後の日本環境教育学会の中長期的な方向性を集中的に検討することとなりました。その主な活動として、本学会が向こう20年間、学術団体としてどのような役割を果たしていくべきか、その大枠での方向性を提示することを企図した『未来ビジョン』の策定を進めており、本大会にてその最終版をご覧いただく運びとなっています。これに際し、今後『未来ビジョン』を形にしていくプロセスに関わっていただける若手会員のみなさんから、今後の学会運営について様々にご意見をいただき、ざっくばらんに議論ができればと考えています。

当日は、はじめに川嶋直さん（川嶋直事務所・公益社団法人日本環境教育フォーラム前理事長）から話題提供をいただき、続けて「えんたくん」を用いたグループワークを行う予定です。今後20年間の学会運営に当事者として関わろうという意欲を持っていただいている皆さんと、熱く楽しく夢のある議論を交わせればと願っています。

●会員懇談会

日時：8月31日（土）17:00～18:00

会場：E棟1階 映像ホール（江戸川大学駒木キャンパス）

●懇親会

日時：8月31日（土）18:30～20:30

会場：L棟1階 学生食堂（江戸川大学駒木キャンパス）

●英語報告部会

日時：9月1日（日）9:00～11:00

会場：E棟3階 312 講義室（江戸川大学駒木キャンパス）

本大会では9月1日（日）の口頭発表内（9:00～11:00）に、すべてを英語によって進行する「英語報告部会」を設定します。発表形式は口頭発表（対面・オンライン）・質疑応答です。

英語で発表される参加者だけでなく、会員の皆様にも積極的に英語報告部会にご参加ください。詳しくは研究発表プログラム（p.28）をご覧ください。オンラインの参加の方は、参加者に送られました Zoom の ID とパスコードをご確認ください。

●国際交流会

日時：9月1日（日）11:00～13:00

会場：E棟3階 312 講義室（江戸川大学駒木キャンパス）

テーマ：JSFEE の国際交流のこれまで、これから

骨子：本学会の国際交流委員会の関わり、実績、課題って？事例紹介をもとに

対象：国際交流・国際共同研究に関心のある会員（研究者でも実践者でも）

事例・これまでの活動紹介を通じた国際共同研究、交流プロジェクトについて、国際交流委員との交流

言語：日本語と英語

●研究会（研究委員会主催企画）

日時：9月1日（日）13:00～15:00

会場：E棟1階映像ホール（江戸川大学駒木キャンパス）

内容：

2023年度まで本学会に設置されていた5つの研究会は、2024年6月末をもって設置期限を迎えました。今回は、各研究会からこの間の活動を報告していただき、さらに、質応応答・意見交換の時間を設けます。また、次期研究会については2024年度中に設置予定ですが、研究委員会による現時点での構

想案を説明させていただきます。なお、今回は各研究会が一堂に会しての報告と意見交換が中心となりますが、次の時間帯（自主課題研究）に、別途エントリーしている研究会もあります。また、学会誌にも、研究会の活動報告が掲載される予定です。研究会の活動に関心のある方は、ぜひご参加・ご一読をお願いいたします。

プログラム：

- ・趣旨説明
- ・活動報告（各 15 分）
 - 「SDGs の教育」研究会
 - 「気候変動教育」研究会
 - 「環境教育プログラムの評価」研究会
 - 「原発事故後の福島を考える」研究会
 - 「公害教育」研究会
- 質疑応答・意見交換
- ・次期研究会について

10. 一般公開企画

●特別企画「災害時の伴侶動物との同行避難を考える」

日時：8月30日（金）14:00～15:00

会場：L棟2階 第一体育館（江戸川大学駒木キャンパス）

伴侶動物との同行避難とは、災害の発生時に飼い主が飼っている動物を連れて安全な場所へ避難することをいいます。過去の災害では、避難所に動物を連れて行けないという理由で飼い主が避難せず、被災により伴侶動物と一緒に亡くなられたという事例もありました。家族同様に過ごしている動物を連れて避難したいと思うのは、飼い主の自然な気持ちです。

身近な避難所で伴侶動物を受け入れることで、飼い主が動物を連れて躊躇なく避難できる体制をつくり、動物を飼っている人の安全を確保することが伴侶動物との同行避難の目的です。

今回は飼い主や自治体にできることを考えます。はじめに、渡辺元東京農工大学名誉教授から、この活動の意義について話を頂き、そのあと実際のケースを想定し、井上由理さん（ハンドラー）の解説で、鶴見幸子さんと加藤雅美さん、お二人のハンドラーと6頭の救助犬（実際に被災地で活動しているボランティア犬）が訓練する方法を見学、体験していただきます。

人と動物の持続可能な社会を築く一歩として、本大会実行委員会がこの企画をプランニングさせていただきました。お一人でも多くの方にご参加いただけますようお願いいたします。



●公開シンポジウム

【第1部】

日時：8月31日（土）13:00~14:45

会場：E棟1階 映像ホール（江戸川大学駒木キャンパス）

テーマ：まちづくりが織りなす しなやかな環境教育

登壇者：

進行：佐藤秀樹 氏（江戸川大学）

講演者：矢口輝美 氏（流山防災まちづくりプロジェクト）

講演者：木村浩 氏（武蔵野市）

コメンテーター：秦範子 氏（都留文科大学）

概要：

2024年1月1日に発生した能登半島地震は、私たちの日常がつねに自然災害と隣り合わせであることを、否応なしに改めて認識させるものであった。大きな災害は学校をはじめとする教育活動にも支障をきたし、学びの場が失われてしまうようにも感じられる。しかし、だから今こそ計画された学びの場だけでなく、災害との関係も含めた日常のなかでのインフォーマルな学びにも光を当てることで、どのような状況においても折れてしまうことのない「しなやかな」環境教育の実現を目指すべきと考えた。

本大会の開催地である流山市は、人口増加率が6年連続で全国1位になるなど、子育て世代を中心としたまちづくりで脚光を浴びている。こうした地域社会が災害に対してどのように備えようとしているのか。また、特に人口が集中する都市部において日常的な課題となる廃棄物・ごみをめぐる問題に対して、住民はどのように向き合ってきたのか。これらはいずれも、まちづくりの重要な課題であるとともに、環境教育として重要かつ貴重なインフォーマルな学びの機会とも捉えられる。

本シンポジウムでは、まちづくりに関わる重層的な課題が織りなす、しなやかな環境教育の新しい形を模索し、地域性を重視しながら持続可能な未来を築くことを目指した議論を展開したい。

【第2部】

日時：8月31日（土）15:15~17:00

会場：E棟1階 映像ホール（江戸川大学駒木キャンパス）

テーマ：「環境教育」というアイデアを通して何を探究してきたのか

～環境教育の探究世界の地図づくりの試み～

登壇者：

趣旨説明・進行：安藤聡彦氏（埼玉大学）

発表者：川嶋直氏（川嶋直事務所・公益社団法人日本環境教育フォーラム前理事長）

発表者：大森亨氏（北海道教育大学〔元〕）

まとめ：原子栄一郎氏（東京学芸大学）

概要：

環境教育に携わる人たちは、これまでどのような「探究」を行い、どのような「知」を生み出し、その「知」を用いてどのような「世界」を切り開いてきたのだろうか。

この問いへのアプローチとして、環境教育に携わってきた方々の中からおひとりずつにフォーカスをあて、その人に即してこの問いを解明する。このような試みを継続し、問いに対する答えが蓄積され、その答えを横断的総合的に考察することによって、やがて環境教育に携わる一人の人を超えてより普遍的な「環境教育の探究世界の地図」が浮かび上がってくるのではないだろうか。

この「地図」を持って「環境教育の探究世界」を探検し、環境教育に携わる一人ひとりが自分の「探究世界の地図」を描くことができるような「地図」を作りたい。

このような期待をもって、この試みに着手する。

そのスタートとして、今回の学会大会シンポジウムで川嶋直さんと大森亨さんをお迎えし、お二人にそれぞれの「環境教育の探究世界」をお話していただき、シンポジウム参加者とその世界を探索する自由な議論を行いたい。

今後、この取組みを、環境教育学会の研究プロジェクトの1つとして継続的に実施する。

以上のワークを通して、一人一人が地図を描くことに期待を寄せると共に、ワークの結果として「環境教育研究史」を跡付け、構築し、創発する第一歩となることを期待する。

※シンポジウムでは議論する時間が取れないため、環境教育学会大会自主課題研究「環境教育の探究世界の地図づくりに向けて（続）」を予定している。

●環境教育メッセ（展示ブース）

一般公開プログラム（無料）として、環境教育に関する各団体の活動の紹介、環境関連書籍・商品等の展示・販売を行います。各団体と大会参加者・学会員のコミュニケーションの場として、是非お立ち寄りください。

日時：8月31日（土）9:00～15:30／9月1日（日）9:00～15:30

会場：E棟1階（江戸川大学駒木キャンパス）

出展者一覧（50音順）：合計13団体

- ・ESD活動支援センター
- ・かもがわ出版・子ども白書編集委員会
- ・（公財）キープ協会
- ・（公財）京都市環境保全活動推進協会
- ・包み屋 kurumiya
- ・（一社）産業環境管理協会資源・リサイクル促進センター
- ・NPO法人 新宿環境活動ネット
- ・（一社）日本雑草学会
- ・（公社）日本環境教育フォーラム
- ・（公財）日本生態系協会
- ・人言洞（同）
- ・（一社）農山漁村文化協会
- ・（一社）プラスチック循環利用協会

11. 発表プログラム

●口頭発表（オンライン）

※登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

8月29日（木）：10:00～11:15

会場	10:00～	10:15～	10:30～
オンライン実践報告	[29G01] 多田満 生成AI導入による社会対話「環境カフェ」－「海洋プラスチック問題を考える」をテーマに－	[29G02] 遠藤晃 ユネスコ BR におけるカモシカ ESD プログラムの実践研究－カモシカボードゲームの開発と実践－	[29G03] 佐藤秀樹 Bangladesh・ジョシオール県における零細農村生産者のエンパワーメントと生計向上への挑戦

会場	10:45～	11:00～
オンライン実践報告	[29G04] 千葉駿 鳥海高原の循環型農業を教材とした持続可能な教育の事例	[29G05] 諸頭純 高校生による麦芽かす有効利用法の模索を通じた地域コミュニティ創出の実践報告

8月29日（木）：14:30～16:45

会場	14:30～	14:45～	15:00～	15:15～
オンライン研究発表	[29G06] 鈴木隆弘 高等学校公民科における ESD の現在－教科書の分析を中心として－	[29G07] 本田裕子 コウノトリが野外繁殖をしている自治体の教育部局の対応について	[29G08] 本庄眞 長年にわたる奈良県におけるカモシカ調査から見てきたこと	[29G09] 溝田浩二 環境教育分野で多様化・高度化する昆虫活用ニーズの現状と課題

会場	15:30～	15:45～	16:00～
オンライン研究発表	[29G10] 今村莉子 自然体験学習を行う青少年教育団体（NPO、NGO）において、学生ボランティアの活動継続参加を可能にする要因の分析	[29G11] 渡部聡子 ボランティア活動者による政治参加の実態：ドイツにおける請願の事例から	[29G12] 後藤みな ドイツにおける森林教育の現代的アプローチ－その視点と射程－

会場	16:15～	16:30～	16:45～
オンライン研究発表	[29G13] 飯塚宜子 存在論的転回と環境教育－ノン・ヒューマンと人間の連続性	[29G14] 酒井佑輔 日本の環境教育におけるパウロ・フレイレ－花崎皋平の歩みと教育実践から－	[29G15] 谷萩真樹 有機米の学校給食使用における教育的意義－「教科書対応の授業アイデア表」の作成と検証－

●口頭発表（対面）

※登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

8月31日（土）：9:00～9:55

会場	テーマ	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
A会場 202 講義室	環境教育を考 える (研究)	[31A01] 原子栄一郎 私は「環境教育」という アイデアを通して何を 探究してきたのか：私 の環境教育の探究世界 の地図づくりの試み	[31A02] 大森和樹 デューイの思想から考 える動物園・水族館の 教育 — 『学校と社会』 を中心に—	[31A03] 若林身歌 ドイツにおける環境教 育学の視座に関する研 究 — 「森の教育学 (Waldpädagogik)」と 環境教育に着目して	総合 討論
B会場 212 講義室	学校 教育 (研究)	[31B01] 井上真理子 学校教育で森林づくり 活動を行う実施体制の 事例分析	[31B02] 中澤朋代 学校におけるESD環境 教育の展開モデルとコ ーディネート	[31B03] 吉村親 小学校の総合的な学習 の時間における農業学 習の可能性	総合 討論
C会場 223 講義室	プログ ラム開 発 (研究)	[31C01] 陣内雄次 持続可能なまちづくり のための学びと学習プ ログラムに関する一考 察	[31C02] 高橋正弘 希少野生生物保護を題 材とした対馬市におけ る環境教育の方向性の 析出バリエーションに ついて	[31C03] 山崎博史 地域の地質特性を活か した環境教育プログラ ムの構想：環境教育に おける長時間スケール の視点について	総合 討論
D会場 302 講義室	教育 実践 (実践)	[31D01] 浜泰一 大学フィールドワーク 授業における学習内容 と成果	[31D02] 竹本裕之 年少児と養育者を対象 とした「嗅覚迷路ゲー ム」の実践：描画を用い た教育効果の分析	[31D03] 畑田彩 環境教育と鑑賞教育の 融合 — 国連子ども環 境ポスターを活用した 鑑賞教育 次の展開に 向けて—	総合 討論
E会場 312 講義室	自然 体験 (実践)	[31E01] 大谷陵朔 草木染を用いた環境教 育プログラムの開発 — 実施方法の検証およ び改善、煮汁の比色定 量—	[31E02] 渡邊司 持続可能な未来を考え る里山体験学習	[31E03] 大和淳 新潟にある水族館が実 施する「田んぼ体験プ ログラム」での学びに ついて	総合 討論

8月31日(土) : 10:00~10:55

会場	テーマ	10:00~	10:15~	10:30~	10:45~
A会場 202 講義室	環境教育の再考 (研究)	[31A04] 新田和宏 「失われた30年」における日本環境教育－日本環境教育史研究Ⅷ－	[31A05] 野田恵 環境教育の今日的課題－国連子どもの権利委員会一般的意見(ジェネラルコメント)26号をから読み取れること	[31A06] 東方沙由理 環境教育と批判的思考	総合 討論
B会場 212 講義室	学校種間の接続 (研究)	[31B04] 井村礼恵 幼小接続期の教育課程における「食環境教育」の可能性	[31B05] 加藤美由紀 小中接続の視点から見た生物多様性保全教育	[31B06] 松井晋作 高大接続の観点から見た環境教育	総合 討論
C会場 223 講義室	環境学習・環境活動の影響 (研究)	[31C04] 木俣美樹男 環境学習による心の構造と機能の文化的進化	[31C05] 赤石澤大貴 自然保全活動従事者の参加要因と継続要因～佐渡ヶ島を事例として～	[31C06] 河野晋也 環境との相互作用がもたらす学習者の変容	総合 討論
D会場 302 講義室	教材開発・指導法 (実践)	[31D04] 榎原智美 SDGs 関連授業の実践をふまえた授業形態から小学生の指導法を考える	[31D05] 内田竜嗣 環境学習マンガウェブサイトの運用と課題	[31D06] 田開寛太郎 湿地における環境教育VR オープン教材の開発と教育実践	総合 討論
E会場 312 講義室	自然保育 (実践)	[31E04] 増田直広 保育者養成校における地域イベント出展の取り組みと意義	[31E05] 河村幸子 主体性を育てる自然保育の展望と課題	[31E06] 富田宏 保育科における郷土資料に記述された子どもの自然遊びの実践と生きた文化として地域へ還す試み	総合 討論

8月31日(土)：11:00～11:55

会場	テーマ	11:00～	11:15～	11:30～	11:45～
A 会場 202 講義室	地域の 持続可 能性 (研究)	[31A07] 田中純一 住み続けることを支え るもの：能登半島地震 被災集落住民の暮らし から	[31A08] 小栗有子 「土着知」を世代間継 承するための方法開発 とその実践 ー与論島 民との共同実践・研究 の試みを中心にー	[31A09] 元木理寿 人口減少地域でのフィ ールドワークを通じた ESD 展開の可能性 ー鹿児島県錦江町を事 例としてー	総合 討論
B 会場 212 講義室	理科・ 生物分 野と環 境教育 (研究)	[31B07] 羽生一予 小学校 5 年生における 土壌学習前後の土のイ メージの変化	[31B08] 尾上茉莉子 採卵鶏のアニマルウェ ルフェアに関する意思 決定・合意形成を支援 する理科教材の構想	総合討論	
C 会場 223 講義室	大学 生・大 学院生 の認識 (研究)	[31C07] 田村和之 教員を目指す大学院生 の環境教育/ESD につ いての認識：鳴門教育 大学大学院における調 査	[31C08] 後藤忍 放射線被ばく等に関す る大学生の知識と認識 についての調査：ALPS 処理水海洋放出後のア ンケート	[31C09] 大塚啓太 自然への愛着感は大学 進学後の都市/地方環 境によって変化する か？	総合 討論
D 会場 302 講義室	地域連 携・地 域協働 (研究)	[31D07] 山本豪 地域食堂を運営する地 域組織の在り方に関す る研究 -鳥取県鳥取市 河原町『ふれあい食堂』 を事例に-	[31D08] 斉藤雅洋 まちづくりにおける 「協働」と「学び」	[31D09] 萩原豪 桑茶の生産を通じた地 域連携と ESD 展開	総合 討論
E 会場 312 講義室	環境 活動 (実践)	[31E07] 山田貴浩 鳴き砂の調査活動を軸 とした地域との連携に よる環境教育	[31E08] 森谷昭一 用水路からみた地域の 環境課題と自治会の役 割	[31E09] 大島順子 やんばるに生息する野 生生物の交通事故対策 に関する地域住民の意 識 ー運転者に対する 注意喚起としての看板 の役割に関する聞き取 り調査からー	総合 討論

9月1日(日): 9:00~9:55

会場	テーマ	9:00~	9:15~	9:30~	9:45~
A会場 202 講義室	自然 体験 (研究)	[01A01] 村井伸二 自然観察会の設立経緯 と再定義の試み及び展 望への提言 - 時代の 変化と共に持続可能で 多様なあり方とは -	[01A02] 中本貴規 幼児期における自然体 験を通じたコミュニケ ーションの可能性	[01A03] 岡健吾 アイヌ文化学習として の自然体験活動に関す る研究 - SLE 研究の 視座から -	総合 討論
B会場 212 講義室	博物館 と博物 展示施 設 (研究)	[01B01] 田村憲司 ミュージアムパーク茨 城県自然博物館におけ るボランティアの教育 普及活動	[01B02] 佐々木啓 ネットリサーチにみる ビジターセンターに対 する意識とニーズ	[01B03] 松本朱実 ミュージアムを拠点と した連携によるESDの 可能性と動向	総合 討論
C会場 223 講義室	気候変 動・気 候適応 (研究)	[01C01] 野口扶美子 「気候適応にむけた在 来知の活用」を考える: 公正・公平で対等な対 話と協働の観点から	[01C02] 秦範子 ミュニシパリズムの実 践の可能性と課題: バ ルセロナ市民政党的政 策を事例として	[01C03] 藤岡達也 SDGs と人新世を踏ま えた地球環境教育の構 築	総合 討論
D会場 302 講義室	環境教 育の歩 み (実践)	[01D01] 石崎一平 私は「環境教育」という アイデアを通して何を 探究してきたのか: 私 の歩みと心の消息	[01D02] 鳥屋尾健 自然学校の質的深化と 広がり ~KEEP協会の 環境教育事業 40年の 歩みから~	[01D03] 林美帆 参加型学習と公害経験 の継承 -みずしま地 域カフェと『水島メモ リーズ』 -	総合 討論
E会場 312 講義室	英語報告部会 (詳細は p. 28)				
F会場 323 講義室	奨励賞審査 (詳細は p. 28)				

9月1日(日): 10:00~10:55

会場	テーマ	10:00~	10:15~	10:30~	10:45~
A 会場 202 講義室	海洋に 関わる 教育 (研究)	[01A04] 堀江慧悟 三重県鳥羽市におけ る海洋教育プログラ ムの構築・実施とそ の影響調査	[01A05] 森元真理 海洋ごみ問題を題材 とした教材デザイン	[01A06] 大屋進之介 小学校の海洋教育が児童 の海への意識に与える影 響 - 事前事後アンケート による効果検証 -	総合 討論
B 会場 212 講義室	メディ アの活 用 (研究)	[01B04] 早川礎子 多文化共生保育と絵 本の環境教育につい て - 日本と韓国の 比較を通して	[01B05] 原理史 デジタルアースを活 用した ESD 実践とそ の効果 ~ 高校地理総 合における事例研究 ~	[01B06] 大原尚之 Conservation Photography は日本で生まれるか 自 然写真家らの語りから見 つめなおす日本の自然写 真・ネイチャーフォトの環 境メディア史	総合 討論
C 会場 223 講義室	環境問 題・生 物多様 性 (研究)	[01C04] 浅岡永理 ユネスコスクールに おける「生物多様性」 に関する教育の量的 分析 - 中学校・高等 学校を中心に -	[01C05] 東照晃 レイチェル・カーソン の自然への想いと化 学物質	[01C06] 北久保希愛 若い地域住民の生物多様 性保全意欲に影響を与 える要素の相対的評価	総合 討論
D 会場 302 講義室	参加型 学習 (実践)	[01D04] 石田浩基 “参加する”企画展示 による環境学習効果 の発現	[01D05] 林浩二 市民参加による野外 解説板制作とその発 展	[01D06] ニノ宮リムさち 持続可能な暮らしと自然 を守る地域・市民運動とシ ティズンシップ - ESD と しての環境教育の現代的 可能性と課題を考える	総合 討論
E 会場 312 講義室	英語報告部会 (詳細は p. 28)				

9月1日(日): 11:00~11:55

会場	テーマ	11:00~	11:15~	11:30~	11:45~
A会場 202 講義室	学習 評価 (研究)	[01A07] 富田俊幸 特別活動を中心とした SDGs - ESD の混合研 究法による評価	[01A08] 小玉敏也 中山間地域の学校にお ける ESD の評価研究	総合討論	
B会場 212 講義室	科学技 術に関 わる方 法論 (研究)	[01B07] 工藤充 ESD への存在論的議論 の導入に向けた試論	[01B08] 福井智紀 思考ツールの現状と意 思決定・合意形成を支 援するための「参加型 思考ツール」の可能性	総合討論	
C会場 223 講義室	社会変 革・社 会参画 (研究)	[01C07] 福田美紀 持続可能な開発目標 (SDGs) 実施プロセス における意義あるユー ズの参画	[01C08] 森朋子 シビック・アクション の実践を伴う環境教育 プログラムの展開	[01C09] 齊藤由倫 学生の自己効力感と国 の SDGs 進捗に関する 一考察 一社会変革に 向けた環境教育の可能 性一	総合 討論
D会場 302 講義室	課題 解決 (実践)	[01D07] 岡山咲子 環境課題解決人材の育 成に向けた全学副専攻 「環境サステナビリテ ィ実践学」の設置	[01D08] 内藤光里 京都市における脱炭素 ライフスタイルを広げ る活動の実践と評価	[01D09] 松田剛史 エシカル消費をテーマ とした学生の PBL 活動	総合 討論

●口頭発表（英語報告部会）

※登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

9月1日（日）：9:00～11:00

会場	9:00～	9:15～	9:30～
E会場 312 講義室	[01E01] Chiemi Saito Creativity among Children: The Wokober Learning Approach	[01E02] Adella Anfidina Putri The Current 'Merdeka' Curriculum in Indonesia: Implications for Environmental Education.	[01E03] Siyuan Wang Sustainability, Transformative Learnig and Non-goevernmental Organizations in China: Practices and Challenges

会場	9:45～	10:00～	10:15～
E会場 312 講義室	[01E04] Gegenduoren Zhang The Cross-Cultural Dissemination of Environmental Education: Feasibility of the Japanese ASAZA Fund Practices in Chinese Elementary Schools	[01E05] Hyun Kim Analysis of Secondary Social Studies and Science Textbooks on Climate Change in Korea and Japan	[01E06] Kelvin Tang Assessing climate change conceptions among Japanese early-adolescents

会場	10:30～
E会場 312 講義室	[01E07] Daffa Afiz Habibillah Climate Change in The Textbook: Academic Evaluation of Indonesian Climate Change Education (CCE) in Lower Secondary School Textbooks

●口頭発表（奨励賞審査）

9月1日（日）：9:00～10:00

会場	9:00～	9:05～	9:22～	9:39～
F会場 323 講義室	挨拶	[01F01] 安井紬 環境教育プログラムのセ オリー・プロセス・イン パクト評価；政策評価理 論と M-GTA を用いて	[01F02] 深澤陸 森林への感受性強化を志 向した地下足袋での森林 散策体験の効果検証	[01F03] 宇都宮俊星 農業を取り巻く社会的課 題を基盤とした探究学習 の取り組み

●ポスター発表

8月31日(土) 9:00~13:00 (コアタイム 12:00~13:00)・9月1日(日) 9:00~13:00

※登壇者(筆頭者)として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

<ポスター会場:211 講義室>

【研究発表】

- P 研 01 桑原大輝 日本国内の脱炭素促進に向けた投資についてインパクト投資と脱炭素のマッチングを検討
- P 研 02 張蝶 鋼鉄企業のカーボンニュートラル
- P 研 03 甲田紫乃 脱炭素社会に向けた取り組みに関する事例研究
- P 研 04 楊ショウ 電気自動車電源としての再生可能エネルギー活用の可能性
- P 研 05 張露 LCA法による農産廃棄物再利用の環境効果分析 ―トウモロコシワラに着目―
- P 研 06 WANG ZIHAN 日中企業による環境情報開示の比較研究
- P 研 07 長島優斗 放置竹林に関する認知・経験・関心の状況及び竹林に関するNPO法人の活動内容
- P 研 08 王イブン コーヒー粕水抽出液中のカフェインがコマツナの成育におよぼす影響
- P 研 09 比嘉俊 日本における外来生物の普及啓発
- P 研 10 楊坡 日本における外来生物による環境破壊 ～「外来生物法」の改正に中心を検討～
- P 研 11 中村心寧 神奈川県丹沢山域における生物多様性普及のための意識調査 ―生物文化多様性に着目して―
- P 研 12 岩西哲 ラムサール条約登録湿地における小中学生を対象とした環境学習プログラムの評価
- P 研 13 山本康介 地域の自然・生物を生かした体験プログラムが対象者に与える影響 ―三重県鳥羽市海洋教育推進事業を対象として―
- P 研 14 本田尚大 動物園における教育効果向上策について ―デジタルコンテンツの活用という観点から―
- P 研 15 大野堅慎 水族館の訪問による環境配慮行動に及ぼす影響
- P 研 16 二井菜月 身近な動物に対する関心及び苦手な動物への関わり方の許容程度と意欲
- P 研 17 鈴木一正 福島原発事故における保養プログラム:コロナ禍前後の実施状況の比較

【実践報告】

- P 実 01 阿河真人 生物多様性地域戦略市民案は行政の生物多様性地域戦略策定を加速できるか? ~東京都江東区での活動報告~ (その2)
- P 実 02 倉田薫子 生物多様性を自分事とするために 段階的・多角的ワークショップの実践と研究
- P 実 03 安藤匡哉 環境教育プログラムにおける各要素を変更した学習効果の比較検証 ―異なる説明タイミングが学習効果へ及ぼす影響―

- P 実 04 明石野乃香 自然環境と生活との距離感が環境教育における環境の捉え方に及ぼす影響—ケニア現地小学校での調査を通して—
- P 実 05 佐藤裕司 持続可能な地域コミュニティづくりに資する博物学の共創 —小学校余裕教室の活用を例に—
- P 実 06 藤井徳子 すべての子どもに自然を！プロジェクト ～乳幼児期の豊かな自然体験を保障する仕組みの社会実装をめざして～
- P 実 07 吉澤樹理 保育内容指導法（環境）におけるネイチャーゲーム実施前後の環境意識の変容
- P 実 08 森嶋佳織 栃木県における自然体験活動支援のための保育動画コンテンツの開発
- P 実 09 小畑チハル 子ども学専攻学生による食環境教育プログラム開発と実践
- P 実 10 福田らら 木育教室「地域材でつくろう」の開発・実施・評価
- P 実 11 高橋一秋 木育プログラム「木工クラフト～えんぴつストラップ作り～」の開発・実施・評価
- P 実 12 ヨウショウ 環境教育のための草木染の活用
- P 実 13 丸本倍美 水銀を身近なものと捉えてもらうための取り組み

●自主課題研究

※代表者として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

8月29日(木): 12:00~14:00 (オンライン)

インタープリター・トレーニングの時流 ~人材育成の実際と研究から~ (増田直広)

9月1日(日): 15:30~17:30 (対面)

202 講義室 自主課題研究①

気候変動教育を進めるための教育のプログラムとシステムを考える (白井信雄)

212 講義室 自主課題研究②

希望を創る環境学習を求めて (木俣美樹男)

222 講義室 自主課題研究③

「地域をつくるまなび」としての現代的公害学習 —巨大物流・データセンター開発に抗するVRシミュレーションを用いた市民運動の事例から (二ノ宮リムさち)

223 講義室 自主課題研究④

「市野谷の森」の保全にみる市民活動の役割と今後の方向性を考える (川北裕之)

302 講義室 自主課題研究⑤

公害教育のこれまでとこれからを考える —「公害教育」研究会についての意見交換 (古里貴士)

312 講義室 自主課題研究⑥

「環境教育」というアイデアを通して何を探究してきたのか ~環境教育の探究世界の地図づくりの試み~ (続) (安藤聡彦)

321 講義室 自主課題研究⑦

質的研究法を学ぶ 11 ~質的研究を進めていく上でどのように困難な壁を乗り越えていくか~ (高橋宏之)

322 講義室 自主課題研究⑧

社会変革のための環境教育を考える (秦範子)

問合せ先

一般社団法人日本環境教育学会第 35 回年次大会（千葉）実行委員会事務局

E-mail chiba2024@jsfee.jp

※年次大会に関するお問合せ・ご連絡は、こちらのメールアドレスへお願いいたします。

一般社団法人日本環境教育学会第 35 回年次大会（千葉）ウェブサイト

<https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601>

一般社団法人日本環境教育学会事務局

株式会社インフォテック内

〒206-0033 東京都多摩市落合 2-6-1

電話 042-311-3355 ファクス 042-311-3356 E-mail office@jsfee.jp

一般社団法人日本環境教育学会ウェブサイト <http://www.jsfee.jp/>